

師走となりました。私たち教員は、12月でなくとも、いつも走っている感じです。走ることが精神を鍛え、肉体のダイエットになればいいのですが、どうもそうはなっていないようです。とはいえ、教育の営みは休みはなし。走りながら、今月もメルマガをお届けいたします。

◆ 目次

【1】シンポジウムへのお誘い

12月4日のシンポジウム「経済教育：次期指導要領に即した教え方」にご参加を。

【2】最新活動報告とこれからの予定

11月13日の福井ワークショップ

11月30日の東京部会の報告

【3】ニュース・トピックス

入試問題検討プロジェクト報告

【4】授業のヒント

【1】シンポジウムのお誘い

◆12月4日シンポジウム「経済教育：次期学習指導要領に即した教え方」が開催されます。

前号でもお知らせいたしましたが、12月4日（土）13時より、同志社大学で、経済教育ネットワークの総会とシンポジウムが開催されます。

第一部では、神戸大学の地主重美先生の「時事問題の教え方」の講演があります。

第二部では、同志社大学の林敏彦先生の「「効率と公平」「幸福、正義、公正」をどう教えるか」の基調講演を受け、「新しい学習指導要領での経済教育のすすめ方」を、司会を大倉泰裕（松戸秋山高等学校）、問題提起を岩野清美（中間東中学校）、小栗英樹（宇都宮大学教育学部附属中学校）、林敏彦（同志社大学）、峯本英紀（呉昭和高等学校）の各先生から受け、パネルディスカッションで深めてゆく予定です。

最後の落葉の時期、古都の散策を兼ねての参加でも歓迎です。東京の先生方も日帰り可能です。どうぞ京都にお越しください。

終了後は、懇親会も予定されています。人的ネットワークを広げることも可能です。

詳細は、以下のページからご確認ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/index.html>

【 2 】 イベントカレンダー

◆ワークショップ in 福井が行われました。

11月13日、福井大学で「ワークショップ in 福井」が行われました。

当日は、篠原代表の講演「中学公民教科書を読み解く」、教材提案、三枝利多先生の「住宅メーカー 職場シミュレーション」、奥田真一郎先生の進行による討論が行われました。

中学の先生方を中心に、三枝先生が開発された新シミュレーションの一部を実際に行いながら、授業の組み立て方など、現場の実情なども踏まえた提案と検討が熱心に行われました。

内容の詳細は、以下のHPでご確認ください。

<http://www.econ-edu.net/activity/ws/ws20101113.html>

◆東京部会が開催されました。

11月30日、東京部会（No.34）が日本大学経済学部で行われました。

今回は、メインゲストとして上智大学の川西諭先生をお招きして、「仮想取引体験授業の有効性と問題点-行動経済学的な視点から-」という報告いただきました。これは、学生たちに金融取引の仕組みをゲームをゲームによって理解させる試みで、部会参加者が実際に参加をしてその有効性と実際に授業でやる場合の留意点などを確認しました。

そのほか、宮尾先生からの、日本の学生の農業問題に関する認識の問題点がレポートされ、討議が行われました。

東京部会の当日の詳細は、HPにアップ予定です。それをご覧ください。

◆京都部会（No.9）を開催します

日時：2010年12月3日（金） 19時00分～21時00分

場所：同志社大学光塩館 2F 第2共同研究室

◆大阪部会（No.21）を開催します

日時：12月25日（土） 16時00分～18時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

京都部会、大阪部会の案内は、以下のHPでご確認ください。

<http://www.econ-edu.net/>

◆東京部会（No.35）を開催します。

日時：2011年1月25日（火） 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部 会議室

12月シンポジウムの検討、農業問題の考え方 など

東京部会の案内は、確定次第HPでアップします。ご確認ください。

【 3 】 ニュース・トピックス

◆入試問題検討プロジェクト進む

東京部会の報告でもありましたが、本年度の入試問題検討プロジェクトがスタートし、参加の先生方からの分析が集められました。これから総合的な検討になります。

昨年の私立大学だけの分析と異なり、今回はセンター試験も対象としています。センター試験は、選択方式ですが、リード文や選択肢に工夫がみられるものが多く、参考になるものが多いとの指摘が分析の先生方からあがっています。

また、同種のテーマについて、私立大学の出題とセンター試験の出題を比較して、教室の授業にフィードバックするにはどちらが有効かの検討もしららという提案が寄せられています。これだけでなく今回は、入試問題の改善例も提案してゆく準備も行っています。これらの結果は、来年三月までには発表する予定です。

【 4 】 授業のヒント

イギリスの「エコノミスト」は経済雑誌としては、伝統と鋭い分析で知られています。同誌は、日本特集を何度か組んでいます。11月20日号は「日本の将来—ジャパニーズシン・ドローーム」という16ページの特集を組みました。

内容は、日本がこれから直面する超高齢社会は、世界中の注目の的であり、その対応に成功するか失敗するかで、日本の将来が決まるというもので、日本の生気を奪っているのは高齢化だという認識のもとでの、分析と提言です。

「エコノミスト」の原文は、ネットで読むことができます。ただ、英文の雑誌ですから、それを読み解くのはかなりの英語力が必要です。大学の教養、場合によっては専門課程で読本として利用しているところもあるようです。教員でも、英語に慣れていないと難しいかもしれません。

ありがたいことに、日本語の翻訳が「JBプレス」というところからネット上に、週5本分アップされています。それを読めば、内容が簡単につかめます。この特集も全体が翻訳をされていますから、資料として授業に使うことができます。

<http://jbpress.ismedia.jp/category/economist>

外から日本を見て、日本はこのように見られている、また、そこに書かれている分析や提言がどこまで適切なものか、高校生でも十分に検討することができるはずです。

新聞記事は授業資料の定番ですが、このような外国の雑誌も、使い方によっては十分に参考になるはずです。

【 5 】 編集後記 (みみずのたはこと)

「40年周期説」というのを授業で説明するために、東京大学に取材に行ってきました。取材といっても、写真を撮りに行っただけなのですが、自転車で15分ほどで東京大学に着きますから、授業の空き時間で往復してきました。

「40年周期説」というのは、1945年を基点として、40年ずつ前と後ろに時代を動かすと、日本社会の上昇と下降が見えるというものです。なぜ東大かというと、丁度「坂の上の雲」を上り詰めた数年後に、夏目漱石が『三四郎』のなかで、「滅びるね」という予言を書いているからです。

『三四郎』にちなんだ三四郎池が東大の構内にあります。それを撮影して、授業でここはどこ？とやりました。生徒いわく「六義園」「小石川植物園」…。なかなか三四郎池がでませんでした。

いままでは東京西郊の学校に勤めてきて、はじめて山手線の内側の学校に勤めています。江戸や明治の文化の遺産が近くにあり、有難い環境です。ところが生徒は、その地の利をあまり生かしていないような気がしています。もったいないなあと思うことしきりです。

先生方の学校の環境はいかがでしょう。足元を見ると、そこに泉が湧くはずだと思うのですがいかがでしょう。



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

担当 : 新井 明

————— (C) Network for Economic Education ◆◆